

施設方針（変更案）

8月

方針	内容
	(新設)
長寿命化	計画期間内に躯体の劣化を抑え、建物を可能な限り長く使用するための改修（原状回復・機能向上等）を行うこと。
維持管理	既に長寿命化改修を実施している、あるいは、築年数が新しいなどの理由により、計画期間中に改修等の事業実施は行わないが、今後も存続する可能性が高い施設であるため、適切に維持管理を行っていくこと。
集約化	同様の機能を持つ複数の施設を1つの施設に統合すること。
複合化	異なる機能を持つ複数の施設を1つの施設に統合すること。
現状維持	施設のあり方などについて更なる検討が必要であり、今後、集約化や複合化、廃止などの可能性があることから、計画期間中に長寿命化改修、更新（建替え）、廃止は行わず、必要な修繕を実施し機能を維持すること。
廃止	現施設の使用をやめ、提供しているサービス・機能をなくすこと。

11月

方針	内容
更新（建替え）	既存施設の所在地又は代替地に新たな施設（建物）を建設すること（既存施設の廃止を含意する。）。
集約化	同様の機能を持つ複数の施設を1つの施設にまとめること。
複合化	異なる機能を持つ複数の施設を1つの施設にまとめること。
長寿命化	（計画期間内に既存施設に対して大規模な改修を実施し、延命させるという方向性については変更なし。ただし、概念図を加えるなど、一般の方にもわかりやすいような説明文にするとともに、定義を明確にする。）
現状維持	<p>計画期間中には更新（建替え）、長寿命化改修工事等の大規模な工事、集約化・複合化・統合・廃止による施設の削減を行わない施設のこと。適切な維持管理を行う。</p> <p>将来的な方向性を示せるものについては()内に記す。また、施設方針を導き出した考え方や理由などを記す。</p> <p>以下のような施設が該当</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用者（運営）側に施設を譲渡することが望ましいと考えられる施設であり、今後譲渡に向けて内部的な検討や使用者（運営）側との調整が必要なので、大規模な投資を行いにくいもの（障がい者施設、シルバー人材センター、公設民営保育園など）。 将来的に利用者の減少や施設の利用目的、周囲の状況の変化などが見込まれる施設のため、大規模な投資の実施や施設の廃止を現時点で決定できないもの（市立保育園、第四庁舎など） 計画期間中に施設の耐用年数（RC造・SRC造・S造の場合建築後60年（長寿命化改修工事実施後の施設は建築後80年）、軽量鉄骨造・木造の場合建築後50年）や長寿命化改修工事の実施時期（RC造・SRC造・S造の建物につき、建築後40年）に至らない施設（野火止公民館、大多数の集会所、保健センター、児童発達支援センターなど） 【旧・維持管理を統合】
廃止	（変更なし）

学校及び関係施設（幼児・児童施設）については、上記（の一部）に加え、下記2類型を施設方針とする。

8月

方針	内容
	(新設)
	(新設)

11月

方針	内容
統合	<p>複数の施設（学校施設又は放課後児童保育室に限る。）について、機能を1つにまとめること。</p> <p>統合に伴い機能がなくなる施設はカッコ書きで「●●に統合」、統合に伴い機能が存続する施設はカッコ書きで「●●（の一部）を統合」と表記する。</p> <p>（具体例）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校→他の小学校に統合（1対1ではなく、学区再編し一部ずつ複数の小学校に統合のケースもあり） 小学校→中学校に統合（小中一貫校又は義務教育学校化） 放課後児童保育室→他の小学校の放課後児童保育室に統合
移転	<p>機能はそのままで、施設の設置場所を変更すること。</p> <p>既存施設と同じ用途の施設が移転先には存在しないことから分けたもの。学校関係の施設にのみ用いる。</p> <p>①放課後児童保育室（小学校校舎内または敷地内に存在）が中学校（小中一貫校又は義務教育学校）に移転する ②ココフレンドを小学校校舎内に移転するの2パターンのみ</p> <p>①については、移転後の放課後児童保育室の設置位置は学校間の統合の話が具体的になった際に別途検討する。</p>

(記載順については、引き続き検討する。)